

奈弓連だより

通巻 189号

平成 29 年 11 月号

発行 奈良県弓道連盟

会長 西中 正

編集担当 土谷尚敬 野尻賢司

全国遠的選手権大会

揚田選手 山口選手 決勝進出するも、入賞ならず

10月20日から22日まで全日本弓道連盟中央道場で第68回全国遠的選手権大会が開催されました。奈良県代表として女子では白井礼子、揚田よう子選手が、男子では山口亮二、長濱正伸選手が出場されました。

予選は1回目一手2射、2回目二手4射、合計6射で競われ、揚田選手は4中で、山口選手は5中でそれぞれ決勝進出しました。決勝は一手5回合計10射で行われました。揚田選手はまさかの0中。山口選手は7中と健闘されましたが、残念ながら入賞には届きませんでした。選手の皆さんお疲れ様でした

(事務局)

奈良県弓道近的選手権大会

男子 今西 達也選手、女子 林秀子選手が優勝

第20回奈良県弓道近的選手権大会が11月3日に橿原公苑弓道場にて開催されました。秋晴れの穏やかな1日でした。参加者は男子50名、女子37名で合計87名となり、20射の競技予定を16射に変更しての実施となりました。結果は次の通りです。

男子

優勝 今西 達也 (五條) 13中 競射により決定
2位 新子 修平 (五條) 13中 競射により決定
3位 西中 正 (五條) 13中 競射辞退

女子

優勝 林 秀子 (橿原) 11中 競射により決定
2位 奥戸 由美 (郡山) 11中 遠近法により決定
3位 栄島なるみ (奈良) 11中 遠近法により決定

(競技部 西田ゆり)

中央審査受審者対象に審査講習会開催

射礼によって基本体の習得を目指す

平成29年10月29日(日)橿原公苑弓道に於いて、中央審査受審者を対象に、平成29年度第2回審査講習会を実施。主任講師は須田先生、講師は西中先生、阪中先生。台風で雨が激しく降る中だったので、受講生は26名といつもより少なく、しかし内容が濃く、充実した講習会となりました。

開会式で西中会長より、中央審査を受けるということは指導者になるということを見習うこと、審査員は審査申込書の講習受講歴を必ず見ている、特に伝達講習会を受講し、その年度の指導方針をしっかりと理解しているかを見ているとの話が、また須田先生からは射礼中心に基本体の習得を目指すようにとの話がありました。開会式のあと、射礼研修では八段、七段、

昇段おめでとうございます

倉敷市で10月29日に開催された中国地区臨時中央審査会において佐藤 峻さん(郡山)が六段に昇段されました。

おめでとうございます。

(事務局)

教士の受審予定者が一つの射礼、錬士受審予定者は特定の射礼が行われ、講評では次の指摘がありました。

一つの・持的射礼における共通の注意点

- レベルに達していない人は他の受審者に迷惑をかけることになるので、しっかり基本体を身につけて受審すべきである。
- 息合いのリズムを一定にし、皆が動作を合わせる。また、ゆっくりでなく、ゆったり感を持つことが大切。動作においては、目線に留意する。
- 定め座の位置はできるだけ側の側にとり、足数を増やすと本座の間隔がとりやすい。また、間隔が広すぎると隣の気配が感じられなくなる。
- 座るときに、引き足をして、お尻が座りきらない間に、左ひざを右に揃える。跪坐では、踵にお尻を乗せず、隙間を少し開ける気持ちで。
- 大前は立ち上がるときに、一息吐いてから腰を切ると、全体が揃う。歩行中の方向転換では、しっかりと腰を回し、L字に足を運ぶ。
- 男子の肌脱ぎ、肌入れにおいては正しい着装を心掛け、遅れまいと誤魔化したりしない。

一つの射礼での注意点

- 射手は射位に進む場合、本座に下がった人の位置に対しても意を注ぐ。そうすることによって、正しい射位に立つことができる。抱きの、背負いの防げる。



持的射礼中の受講者達

持的射礼での注意点

- 落ちの弦音の後、本座の射手は一息吐いた後、腰を切ると揃う。

射技にする注意点

- 錬士以上になると教本1巻だけでなく2,3,4巻をもしっかりと読むこと。特に第4巻の窪田先生の説明は読んでおくべき。
- 足踏みに於いて、左右の角度を揃える。特に左足の角度の方が狭いと三重十文字が崩れる。
- 女性は足踏みが狭くなりがち。自己の矢束に開くこと。
- 大三への移行では矢は水平(やや水流)が良い。

また、大三の良し悪しは引き分けに影響する。腰眼で大三を取るという意識を持つ。

- 会では縦線を意識すれば、横線は出てくる。
- 足の角度の方が狭いと三重十文字が崩れる。
- 女性は足踏みが狭くなりがち。自己の矢束に開くこと。
- 大三への移行では矢は水平(やや水流)が良い。また、大三の良しあしは引き分けに影響する。腰眼で大三を取るという意識を持つ。
- 会では縦線を意識すれば、横線は出てくる。
(指導部 野尻祥枝)

皇后盃 第50回全日本女子弓道選手権大会に参加して

一度は行きたいと思いつけた全日本の舞台に立って

全日本女子弓道選手権大会奈良県代表 錬士五段 松村由貴子

憧れの全日本。一度は行きたいと思いつけた全日本。私は高校で弓をはじめ、当時はインターハイが大きな目標でした。1979年福島高校総体に出場することが出来、高校での目標は果たすことが出来ました。20年後、弓を再開して、初めて伊勢神宮弓道場で全日本の試合を見学した時。あの静寂さ、選手達の動作の美しさ、道場全体の厳かな空気を感じ、私もあそこで引いてみたいと、強く思い、第二の目標となりました。

2010年近畿ブロック大会に出場した時は、ここまで近づけたと嬉しかったのですが、当たりがなく、悔しい思いをしました。2013年2014年と国体強化選手に選んでいただき、矢数を増やす練習が出来、大変役に立ちました。それから3年後の今年、思いもかけず全日本出場が決まりました。全日本に行く時はと決めていた袴と胴着と足袋。矢は白鳥で造り、弾と弓は、替え弓共に使い慣れた物。弦は麻を用意し、弾袋も恩師から頂いた印傳に替え、頂いたお守りをカバンのポケットに仕舞い、物理的準備は完璧。全日本出場が決まってからは、先生方から注意、アドバイス、ヒントを沢山いただき、意識を高めて稽古しました。後は、やってきたことを出すだけ。そんな気持ちで伊勢へ向かいました。

9月21日午後、役員の方と、女子選手106名揃っての伊勢神宮参拝。弓道衣装で立順に2列縦隊で内宮まで、神聖な参道を進みながら、このパワーを明日の為に少し分けて下さいと願い歩きました。参拝では全員の拍手が一つに聞こえ、皆の気持ちも一緒なのだ、身も心も引き締まりました。神宮会館に戻り、高円宮妃久子様をお迎えして、開会式。選手宣誓で、千葉の白井選手が、ここまで来られたのは、恩師、弓友、家族のお陰と言われ、私も感謝の思いが溢れました。前日練習は全くの不調で、思うことが一つ出来ず、

何の為にここまで来たのかと自分に問いながら、夜を明かしました。

22日予選当日の朝、巻藁で体の軽さを感じ、的前練習でも昨夜とは違う感触があり、迷いはなくなりました。射場では憧れの舞台に立てる喜びが大きく、当たりは考えず、ただ強い矢を心がけました。初出場の強みで、怖いものは何もありません。普段、当たらないのに、2回とも皆中。1,432点、12位をいただき、決勝進出。信じられない喜びでいっぱいでした。しかし、翌日の巻藁では、昨日と違う。あれあれ?と迷いながらの行射となりました。結果3中、最下位。優勝された東京の前田選手は10射10中でした。

大会を終えて、今までご指導いただいた先生方、稽古に協力して頂いた弓友、何よりもここまで送り出してくれた家族に感謝の気持ちでいっぱいです。そして、自分に自信を得ることが出来ました。しかし、当たりと強い精神力の不足を痛感する大会でもありました。第二の目標を達成し、次は全日本入賞と言う第三の目標ができました。また、今回は弓道の眼目の中の、「人間完成の必要」を思い知る出来事も経験しました。このすごい経験を皆さんに返せるように、精進して行きたいと思えます。



天皇盃 第 68 回全日本男子弓道選手権大会に参加して

当て射ではなく、今できる良射が出るように心がける

全日本男子弓道選手権大会奈良県代表 教士七段 吉本清巳

平成 29 年 9 月 22 日から 24 日まで伊勢神宮で行われました、天皇盃、全日本男子弓道選手権大会に参加させて頂きました。矢渡しは当連盟の名誉会長が射手でした。普段一緒に練習している立場からみても、観客を引き付けるような気迫の矢渡しでした。

予選当日、私の立は 96 番と遅く、出番は 12 時過ぎ。過去 2 回の出場時は 2 回ともすごく緊張し 1 立目で 2 本外しています。今回は、師範が目の前で弦をとってくれていることをイメージしながら、息を上げない、大三では手の内をしっかりと入れ、妻手肘を引きすぎずしっかりと張り、会ではまず横線、次に縦線、そして丹田、最後もう一度横線の伸び合いを意識する、といった事前に決めた注意点を、余計なことは考えず、ただそれだけをなぞることに集中しました。甲矢は幸いにも良いところの的中、乙矢は外してしまいました。

長い時間待って、18 時過ぎに 2 立目が開始。2 回目は新たな気持ちになりたかったので、待ち時間の間、1 立ち目の点数結果は一切見ないようにしました。甲矢は、今決めている注意点を最後までなぞれ、納得の出来でした。乙矢は力んで、6 時に外しました。プレッシャーを減らすよう工夫しましたが、やはり緊張すると思うように引けないことを再度実感しました。

終了後何人かの方と話をし、束中だと通過圏内だったけど片矢なので微妙ということでした。その時点で 1 回目の点数が 718 というのを見て、それが何位か確認する時間はなく、自分の 2 回目の点数が出る前に「予選 1434 点以上は決勝進出です」とアナウンスされました。厳しいかなとは思いつつ、確かに微妙な点数なので、ドキドキしながら結果を待ちました。

いよいよ、決勝進出者が発表され、下の方に自分の名前を見つけました。通ったことにはホッとしましたが、ギリギリ通過だったようなので、喜びよりもなんとなく悔しい気持ちが強いまま射場に行き翌日の説明を聞きました。

その夜、大学時代から師事している栃木の千葉師範に予選通過を報告しました。「当て射ではなく、まともな射を心がけた方が、結果として良い結果になると思うよ」と言われ、改めて、当て射ではなく、今できる良射が出るように心がけようと思いました。

決勝当日、天気は快晴、非常に心地よい気候でした。去年は暑く、にべ弓が弱って弦音が出ず、矢飛びも出なかったということがありました。それで今年は矢の重さを 2g 軽くして臨みました。また、去年の大会が終わってから、弓のキロ数を量れる荷物用のはかりを



持ち歩くようにしていました。朝、強さを量ったところ、わずかですが弱くなっていました

一立ち目、初めての決勝 1 本目。甲矢は 3 の黒 7 時ギリギリに的中。決勝は当たっただけで拍手を頂けるので、1 本目が出て、初めての拍手もいただけて取りあえずホッとしました。あとは的中にとらわれず良射を心がけて、引き続けようと思いました。乙矢は、8 時に少し外しましたが、それほど失敗射ではありませんでした。ここで、やはり弓が弱くなっていると感じました。2 立目、悩みましたが、筈を少し下に番えて狙いをやや前にして臨みました。甲矢は一番鬼門の会の縦線も効かせることができ、きれいに離れ、的中。乙矢も的中し、筈と狙いの調整がうまくいきました。結果的にはこの 2 本が 2 日間で一番良い射でした。3 立目、甲矢は、狙いを少し前にするのが甘く、少し後ろに外し、乙矢はうまく会が決まらず、失敗射になりました。決勝は、入場する左手側に大きな中表示が出ており、全員の的中がわかるのですが、他の人の当たりは気にせず見ないようにして、自分の射に集中しました。休憩後の 4 立目は 2 本皆中。5 立目の甲矢も的中。甲矢を立の 5 人全員が当てました。私は 2 番立ですが、大前は乙矢も当てました。ここはしっかりと当てたいと思い、やや横線の伸び合いを重視して、縦線は甘くなりましたが、当てることができました。最後縦線が甘くなったことが反省です。

元々あまり当たる方ではありませんが結果としては 7 中で行射を終えました。優勝が 9 中の石川県の中條選手で、8 中以上が遠近に呼ばれましたので、私の全日本の初決勝戦はここで終わりました。去年は、全く弦音が出ず、当たりも出ず予選敗退でしたが、今年は決勝を引くことができ、また決勝で良い弦音を何本か出すことができたので良かったです。ただ、入賞は叶わず、まだまだ精進不足と反省しました。応援してくださった皆様ありがとうございました。来年も全日本出場にむけて頑張りたいと思います。

世界弓道大会近畿代表選考会

林 秀子選手が近畿代表の一人に

第3回世界弓道大会近畿代表選考会が平成29年11月11日に田辺市立弓道場で開催されました。各府県から41名の選手が、奈良県からは14名が参加しました。競技は4射3回で競われ、4名が選考されました。奈良県からは林秀子選手が選ばれました。（事務局）

全国高等学校弓道選抜大会兼近畿高等学校弓道選抜大会県予選

団体は男子 西ノ京高校、女子 五條高校が1位

10月28日・11月5日の両日に橿原公苑弓道場で第36回全国高等学校弓道選抜大会兼第25回近畿高等学校弓道選抜大会の1次、2次県予選が開催されました。

1次予選(10月28日)の結果:

個人の部: 女子個人 93名参加 38名通過
男子個人 106名参加 28名通過

団体の部: 次の6校が決勝リーグ戦に進出

女子 (参加17校)

奈良北 (19中)、郡山 (18中)、西の京 (13中)、
五條・畝傍・平城 (12中、5校で競射)

男子 (参加19校)

奈良高専 (18中)、榛生昇陽 (17中)、
橿原 (16中)、五條 (15中)、西の京 (14中)
郡山 (13中、3校で競射)

2次予選(11月5日)の結果:

個人戦1位～6位、団体戦1位～3位は、11月25日～26日京都武道センター弓道場で行われる第25回近畿高等学校弓道選抜大会に出場します。(奈良高専は、高体連未加入のため出場権がないので、男子個人戦は、7位・8位が出場、団体戦は4位が出場。郡山は前年度男子団体優勝校なので、5位が出場)

また、個人戦1位・2位、団体戦1位は、12月23日～26日滋賀県大津市ウカルちゃんアリーナ特設弓道場で行われる第36回全国高等学校弓道選抜大会に出場します。(上記の理由により、男子個人戦は3位が出場) 2次予選の結果は次の通りです。

個人戦

1次予選通過者女子38名、男子28名で準決勝(4射3中以上で通過)を行い、女子6名、男子12名が通過。射詰め、遠近競射で順位を決定しました。

女子個人

1位 吉田智美 (平城) 2位 吉村実沙 (畝傍)
3位 川上琴音 (郡山) 4位 徳久 唯 (高田商業)
5位 柿谷知宥 (五條) 6位 三浦奈々 (青翔)

男子個人

1位 吉村勇人 (奈良高専) 2位 新野竜也 (郡山)
3位 足立拓馬 (平城) 4位 米田琢人 (奈良高専)
5位 高橋優介 (橿原) 6位 久田悠平 (郡山)



喜びの女子個人戦入賞の選手達(左より1位～6位)



喜びの男子個人戦入賞の選手達 (左より1位～6位)

技能優秀賞

女子 徳久 唯 (高田商業)、男子 足立拓馬 (平城)



団体戦

予選通過6校により、総当たりリーグ戦で順位を決定

女子 1位 五條 4勝1敗 38中
2位 郡山 4勝1敗 37中
3位 奈良北 3勝2敗 34中



女子団体入賞校: 前列が1位、後列左より2位、3位

男子 1位 西の京 5勝0敗 44中
2位 奈良高専 4勝1敗 40中
3位 郡山 3勝2敗 41中



男子団体入賞校: 前列が1位、後列左より2位、3位

(高体連 藤村 佳照)

奈良県中学校弓道新人大会

団体は檀原C(男子)、檀原 A(女子)が優勝

第43回奈良県中学校弓道新人大会が11月12日(日)に檀原公苑弓道場で、奈良県中学校体育連盟主催で開催された。総合の部は各人近的8射・遠的8射 合計16射で、1年生の部は各人近的8射で競われた。

新チームになって、初めての県大会でしたか、雨天のため1日順延になった新人大会でした。参加人数は男子50名、女子72名でした。

結果は以下の通りです。

個人戦

男子

- 優勝 大塚 博幸 (八木)
- 2位 芳村 陸 (天理南)
- 3位 柳川 勇太 (檀原)

女子

- 優勝 沼田優美香 (大成)
- 2位 森田 菜月 (檀原)
- 3位 堀内 瑞季 (香芝)

団体戦 男子

- 優勝 檀原C (齊藤 横山 柳川)
- 2位 八木A (岡田 牧野 大塚)
- 3位 檀原A (細川 福田 辰巳)

団体戦 女子

- 優勝 檀原A (上竹 中村 森田)
- 2位 大成A (尾垣 村井 沼田)
- 3位 香芝A (山田 種村 中村)



団体戦男子入賞:

後列左から2位八木A 3位檀原A 前列1位檀原C



団体戦女子入賞:

後列左から2位大成A 3位香芝A 前列1位檀原A

1年生個人の部 男子

- 優勝 樋口 大翔 (香芝) 2位 綿松 真行 (白檀)
- 3位 藤田 和大 (白檀)

1年生個人の部 女子

- 優勝 古岡 志帆 (檀原) 2位 城里桜 (天南)
- 3位 中村 瑛希 (香芝)



前列:個人戦の入賞者左から男子1位~3位 女子1位~3位

後列:1年生個人の部入賞者 左から男子1位~3位

女子1位~3位

(中体連 中前芳一)

編 | 集 | 後 | 記

全日本選手権大会に出場し、奈良県からは久しぶりに決勝進出された松村選手、吉本選手からの報告が届きました。大会に、そして弓道に真剣に臨まれるお二人の姿勢から多くのことを学ばせていただきました。

編集担当 野尻賢司